


令和 2 年度 研究サマリー

研究会名称	腎疾患の発症・病態生理と進展防止に関する研究会	
代表者所属	東京女子医科大学	
代表者氏名	新田 孝作	
研究方法・結果	<p>令和 2 年度の研究プロジェクトの目的は、慢性腎臓病(CKD)において、内臓脂肪が腎機能障害進行に関与するかどうかを検討することです。</p> <p>対象は、東京女子医科大学腎臓内科の外来を受診した 2012 名の CKD 患者のうち、ネフローゼ症候群がなく腹部 CT で内臓脂肪面積(VFA)と皮下脂肪面積(SFA)を測定した 201 名で、後ろ向きに検討しました。エンドポイントは、eGFR30%以上の低下あるいは透析導入です。</p> <p>多変量解析では、VFA/SFA 比は腎予後と有意な関連性を認めました。サブ解析では、VFA 100cm² 以上の群に比して VFA100cm² 未満の群では、VFA/SFA 比のハザード比が高値でした(6.42 vs 1.10)。また、男性と女性では、VFA/SFA のカットオフに有意な差を認めました(0.75 vs. 0.5)。</p> <p>これらの結果から、VFA/SFA 比から腎予後を予測する場合は、性差を考慮する必要がありますと考えられました。</p>	
研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)	<p>1 Kataoka H, Mochizuki T, Iwadoh K, Ushio Y, Kawachi K, Watanabe S, Watanabe K, Akihisa T, Makabe S, Sato M, Iwasa N, Yoshida R, Sawara Y, Hanafusa N, Tsuchiya K, Nitta K: Visceral to subcutaneous fat ratio as an indicator of a $\geq 30\%$ eGFR decline in chronic Kidney disease. PLoS One 2020;15(11):e0241626.</p>	